



さくら 2004 秋

発行
社会福祉法人 東桜会
第 4 号
〒420-0962
静岡市東 527 番地の 1
特別養護老人ホーム 麻機園
TEL 054(247)8739
FAX 054(247)8640

“おばあちゃま” 100歳おめでとう!!

麻機園で暮らしている磯部シズさんが、12月で100歳を迎えます。静岡市から長寿をお祝いして“新100歳お祝い訪問”がありました。その磯部さんに“長生き”の秘訣などを伺いました。

今の気持ちは? 「ありがたく感謝しております。ここに居たから、このように皆様にお祝いして頂けるが、家に居たらこんな大勢の方にお祝いされることもなかった。嬉しい。」

長生きの秘訣は? 「素直に皆様の御好意、施設の環境に甘えていること。あれはイヤ。これはイヤ。と言っているのはダメ。」

これからは…? 「このままここにおいて頂き、素直に甘え感謝し生きていきます。」

寮母からのメッセージ -

いつからか「おばあちゃま」という愛称がついたシズさん。ご自身が自分のことをそう呼んでおり、いつの間にか私たちも「おばあちゃま」と呼ばせて頂く事が多くなりました。

そんな私たち達の声に笑顔で振り向いてくれるシズさん。ついついまた呼んでしまいたくなります。敬老会での着物姿は色気が漂い、とても100歳とは思えない美しい女性でした。ボランティアの方や学生さんの実習等でも、緊張している気持ちを和ませるかのように冗談を言いながら話しかけていますね。シズさんと話している人はみんな笑顔になります。他人を非難することなく誰のことも受け入れる、その心の広さは、長い人生で様々な辛いこと、悲しいことを乗り越えて生きてきた経験があるからなのかもしれません。101歳、102歳…いつまでも私たちの理想の「おばあちゃま」でいてくださいね。



この頃想うこと

麻機園 事務長 望月 恵子

介護保険制度のもと、民間参入、社会福祉法人の進む方向も少しずつ変わってきているように感じます。私も事務長になり3年半、生意気ですが少々東桜会の経営に参画してきました。4回の決算をし、「効率性」「回転率」を求め、人事に携わり「人」の大切さを改めて認識し、“その小さき”を痛感し眠れぬ夜を送っているところです。

私が今一番大切にしたいと考えていることは「コミュニケーション」です。親子、夫婦、兄弟、家族は勿論、社会全て、人の世において最も大切な事と思います。麻機園でも、利用者と介護職、他の職員、それぞれが関わり合い、お互いを理解する事が一番重要です。そこに信頼関係が生まれ、自ら「良い介護」が生まれると思うのです。私たち職員が心をひとつにして、入所者の皆さんと一緒に、楽しみながら仕事のできる施設にしていく事が、今後利用者には選ばれる施設になる事と確信しています。

「貴方は何と呼んでほしいですか?」「一番食べたいものは?」「私に何かお手伝いできるでしょうか?」ご本人にとって最良の生活が送れるようなサービスの提供をしたいですね。

男性が増えたとはいえ、女性が大きな役割を占める介護の世界、さあ!私たち女性が現場から発信して改革を進め、ますますやりがいのある職場を造っていきましょう。

そして最後に私のひとり言。“痴呆の人が安心して生活できる処”と“元気なお年寄りが集える場所”それから“ひとりで暮らせる家”があったらいいね。



静岡市の福祉サービス

麻機園在宅介護支援センター 内田 満
電話番号 247-8880

麻機園在宅介護支援センターでは、独居や高齢者の世帯に訪問させていただき、日常生活の様子を伺っています。その他にも、介護保険の認定の申請、福祉サービスの申請を代行させていただきます。

静岡市では、生活支援型家事援助サービス（ヘルパー）生活支援型生きがい活動支援通所（デイサービス）短期保護（ショートステイ）痴呆相談、理容美容サービス、紙おむつ支給、食事サービス、ひとり暮らし緊急通報システム等、各種福祉サービスの提供を行っています。

また保健センターでは、栄養指導、訪問指導、口腔衛生指導、寝たきり者訪問歯科診療等を行っています。各サービスの利用にあたっては色々条件がありますが、当在宅介護支援センターでも受け付けていますので、ご相談下さい。

これらのサービスを利用して、安心して今の生活を続けていけるように援助していきたいと思っております。



元気に老後を!!

- デイサービスセンター <一般型> 介護職員 三宮はつ江 -

デイサービスに配属になって大勢の方との出会いがあります。利用者の中には、とてもお元気な方や多趣味の方がたくさんいらっしゃいます。起床時に手足の運動をして、30分位の散歩を日課にしている方。ハーモニカ演奏の上手な方とは、レクレーションやお帰りの時に皆さんで歌う曲選びを一緒にしています。また、童謡や演歌もハーモニカに合わせ、周りの利用者にも喜ばれています。

『僕はこれがあるから助かる。家族にも、お父さんは麻機園に行くと元気になる!』と言われる』と話してくれます。たくさんの嬉しく感じる瞬間を体験できました。

私は昭和63年の開園からお世話になり、来年の3月で定年を迎えます。その間に2人の子供も結婚し、孫も3人になりました。

毎日若い職員と一緒に仕事をしているせいか、気持ちも若いつもりでいましたが、最近、「定年」という言葉を気に留めるようになりました。先日もテレビのインタビューで小学生が『60歳位からお年寄りだと思ふ』と答えており、仲間入りする日が段々と近くなっていると感じています。



私も身の回りのことは自分で出来るように努力して、元気に歳を重ねていきたいと思っております。

誕生日

麻機園 寮母 芦口益枝

九月十五日は私の誕生日。そしてこの日は『敬老の日』。小さな頃からお爺ちゃん、お婆ちゃんとお祝いをしてきた。私たちが寮母は、毎月の行事担当者を決め、その月々で入所者の方に喜んでもらえるように色々な催しを計画する。その中でも大切にしているのは誕生者をお祝いすること。その方の希望を取り入れた誕生者外出も楽しみの一つだ。

一年前、私はMさんとふたりでケーキ屋に出かけた。Mさんはいつもよりおしゃれをして、お化粧品にも積極的。お店にはたくさんのケーキが並んでいたが、Mさんは初めからチョコレートケーキを決めていたかのように選んだ。飲み物は大好きなコーヒ。Mさんの車椅子を押してテーブルに着くと、ケーキセットが来るまで懐かしい話を聞きながら時間を過ごした。昔Mさんがキャリアーマンだったこと、喫茶店でコーヒを飲むことが大好きだったこと。私の知らないMさんがどんな暮らしをする。そして運ばれてきたケーキには、店の方の心配りでパースデイキャンドルが立てられていた。ふたりの小さな誕生会が始まった。『八十歳お誕生日おめでとう!』Mさんはふうーっと口ウソクの火を消す。すると思いがけないことが...。店中に拍手が湧き起こったのだ。周りを見回すと、そこにいたお客様、お店のスタッフ、皆が優しい笑顔を向け『おめでとう!』とお祝いしてくれている。Mさんは両手をしっかりと合わせて何度も丁寧にお辞儀をした。私はドキドキする程嬉しく、胸が熱くなって最後にはとうとう大泣きをしてしまった。そんな私にMさんは自分のケーキを半分差し出してくれた。今思えば、お婆ちゃんになだめられている小さな孫のようである。一年経った今も私とMさんはその嬉しさを忘れられない。

ひとりで自由に外出することができない生活。外出は私たちが感じる何十倍も新鮮なものだろう。園外の人達と触れ合う喜び、そして若い頃を自然に思い出さずかけにもなる。例え短く限られた時間であっても貴重なこの時間を大切にしたい。多くの歳を重ねた誕生日はどんなことを感じるのだろうか。先のことというより、今まで歩いて来た人生を振り返り『ご苦労様』と自分自身に慈しみをもちつたのだろうか?今年も『敬老の日』を迎えた。明治、大正、昭和と厳しかったであろう時代を生きた抜いた人生の大先輩を心から敬い、私も又慈しみの持てる自分自身になれるよう、誕生日を重ねていきたい。